

2019/8/22

## 柏の景気情報(2019年7月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報(2019年7月分)

○ 調査期間 : 2019年7月25日 ~ 2019年8月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	19	43.2%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	44	22	50.0%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こ3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりという意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

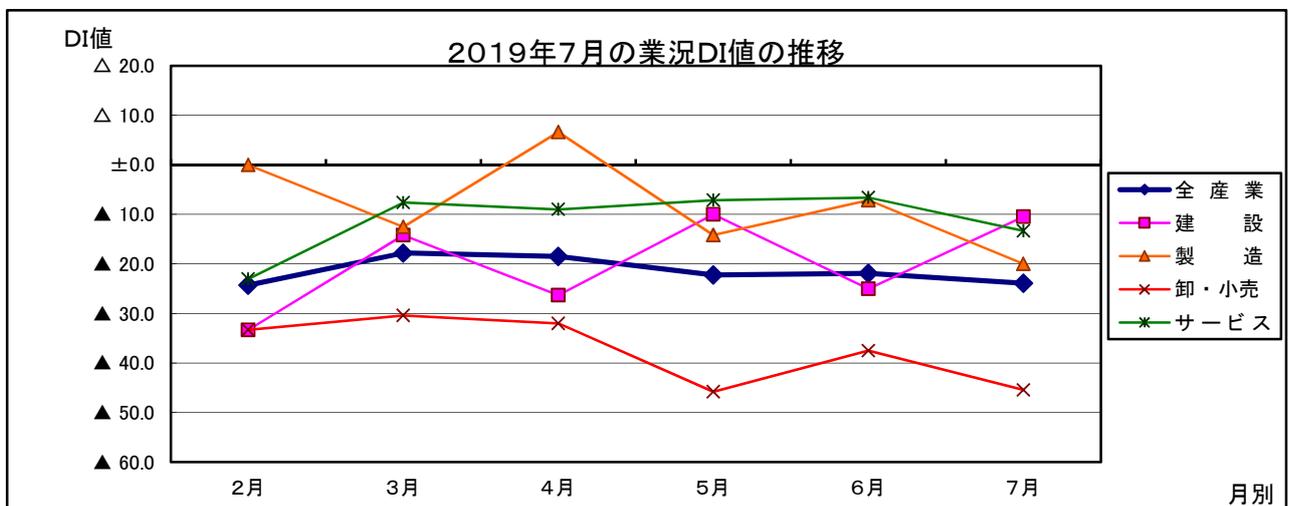
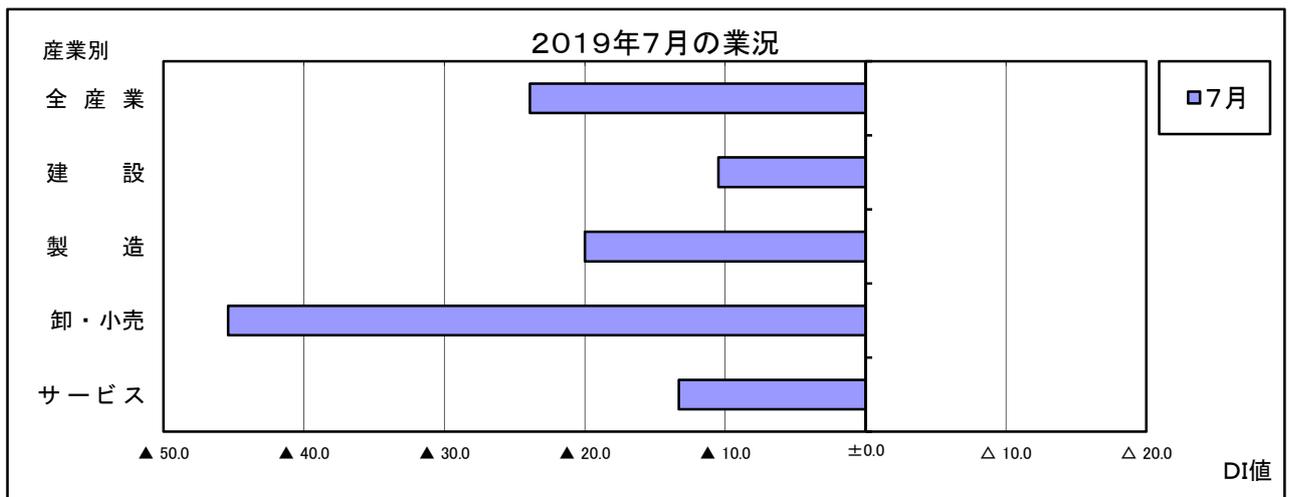
【2019年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.9(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。  
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.5(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲7.1)、卸小売業▲45.4(同▲37.5)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲8.2)となり、マイナス幅が11.5ポイント拡大する見通しである。  
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲7.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.2(同△5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同±0.0)、卸小売業▲40.9(同▲25.0)である。

2019年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲24.3	▲17.8	▲18.5	▲22.2	▲21.9	▲23.9	▲19.7(▲8.2)
建設	▲33.3	▲14.2	▲26.3	▲10.0	▲25.0	▲10.5	▲5.2(△5.0)
製造	±0.0	▲12.5	△6.6	▲14.2	▲7.1	▲20.0	±0.0(▲7.1)
卸・小売	▲33.3	▲30.4	▲32.0	▲45.8	▲37.5	▲45.4	▲40.9(▲25.0)
サービス	▲23.0	▲7.6	▲9.0	▲7.1	▲6.6	▲13.3	▲26.6(±0.0)



【2019年7月の売上についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.4(前月水準▲16.4)となり、マイナス幅が1.0ポイント縮小した。

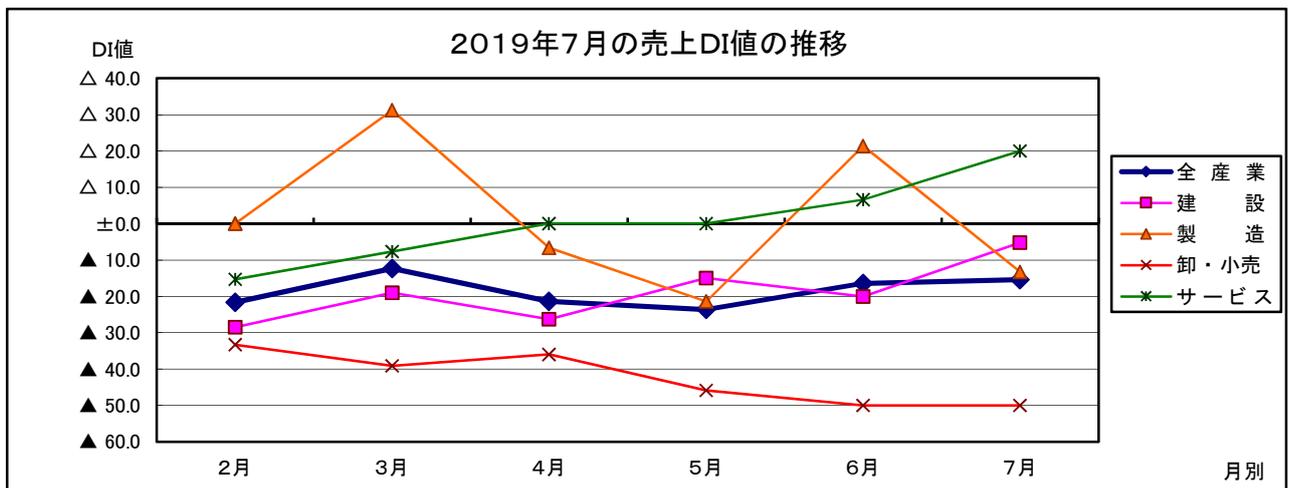
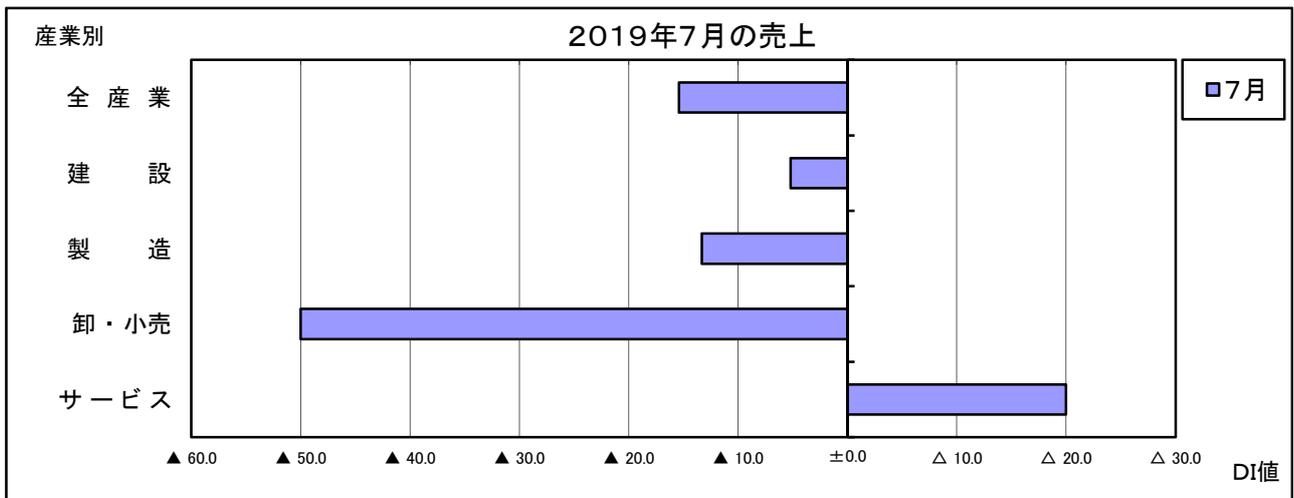
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△20.0(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.2(同▲20.0)である。変らない業種は、卸小売業▲50.0(同▲50.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲13.3(同△21.4)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.0(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△5.2(同▲5.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲14.2)、卸小売業▲27.2(同▲33.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△26.6)である。

2019年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年						先行き見通し
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月~10月(7月~9月)
全産業	▲21.6	▲12.3	▲21.4	▲23.6	▲16.4	▲15.4	▲7.0(▲9.5)
建設	▲28.5	▲19.0	▲26.3	▲15.0	▲20.0	▲5.2	△5.2(▲5.0)
製造	±0.0	△31.2	▲6.6	▲21.4	△21.4	▲13.3	±0.0(▲14.2)
卸・小売	▲33.3	▲39.1	▲36.0	▲45.8	▲50.0	▲50.0	▲27.2(▲33.3)
サービス	▲15.3	▲7.6	±0.0	±0.0	△6.6	△20.0	±0.0(△26.6)



【2019年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.1(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅は6.2ポイント縮小した。

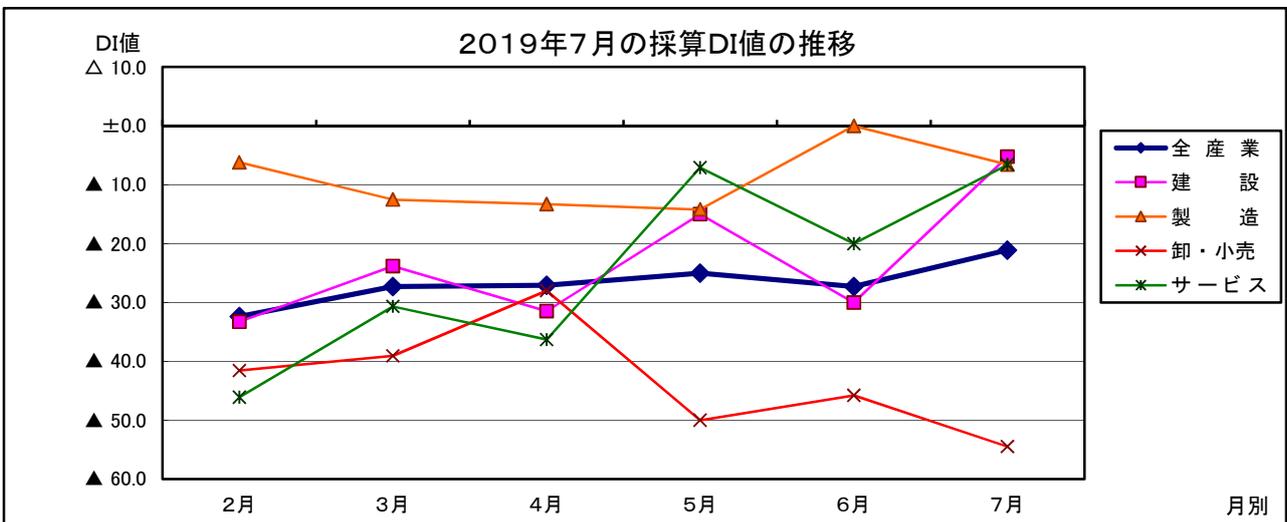
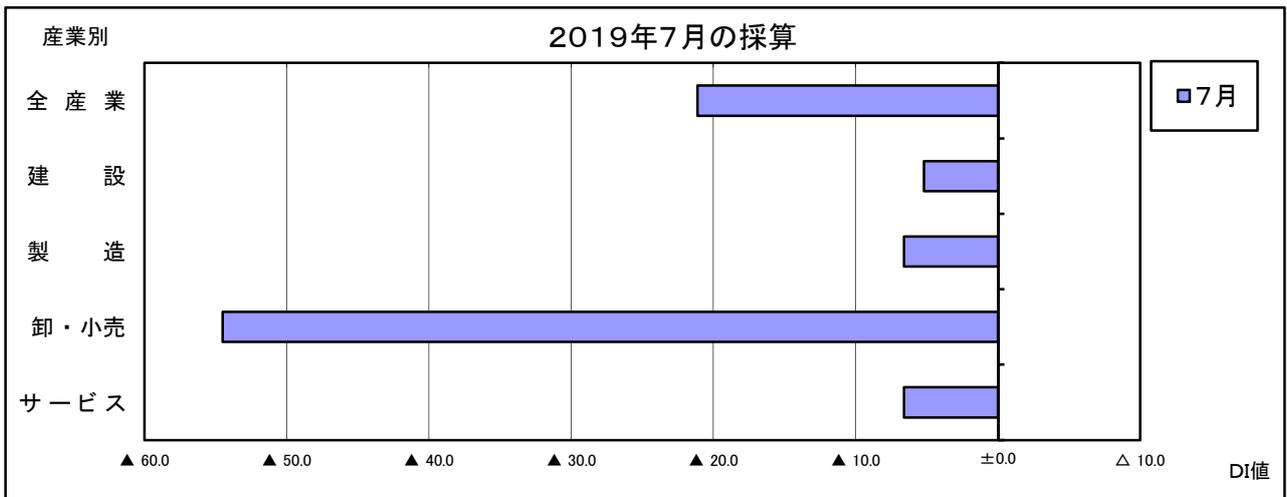
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.2(同▲30.0)、サービス業▲6.6(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲54.5(同▲45.8)、製造業▲6.6(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2(前月水準▲15.0)であり、マイナス幅が3.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△5.2(同▲5.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲14.2)である。変わらない見通しの業種は、サービス業▲6.6(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.3(同▲29.1)である。

2019年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 32.4	▲ 27.3	▲ 27.1	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 21.1	▲ 11.2 ( ▲ 15.0 )
建設	▲ 33.3	▲ 23.8	▲ 31.5	▲ 15.0	▲ 30.0	▲ 5.2	△ 5.2 ( ▲ 5.0 )
製造	▲ 6.2	▲ 12.5	▲ 13.3	▲ 14.2	±0.0	▲ 6.6	±0.0 ( ▲ 14.2 )
卸・小売	▲ 41.6	▲ 39.1	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 45.8	▲ 54.5	▲ 36.3 ( ▲ 29.1 )
サービス	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 36.3	▲ 7.1	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6 ( ▲ 6.6 )



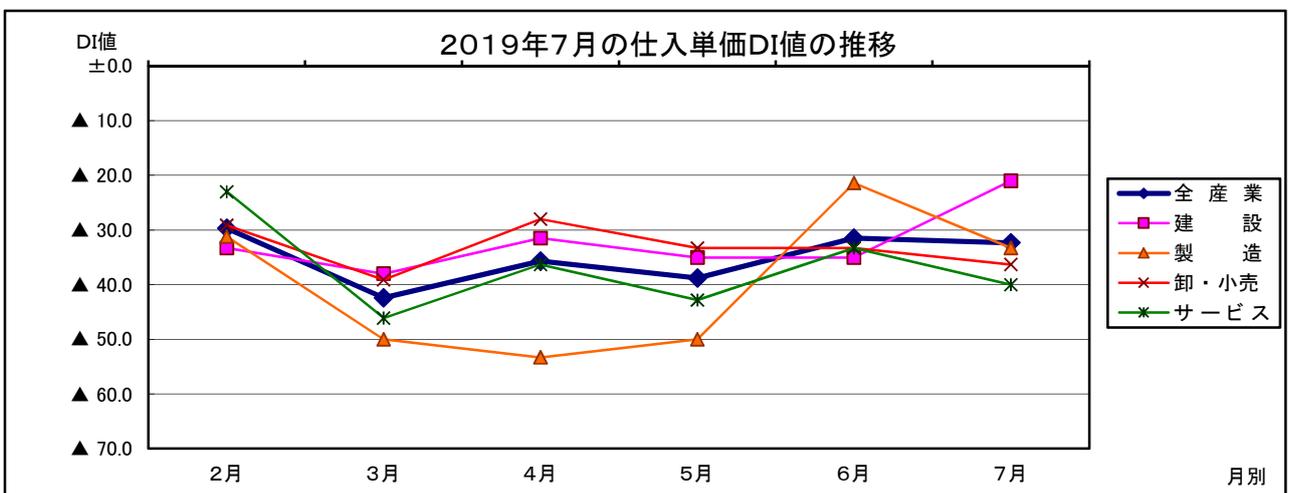
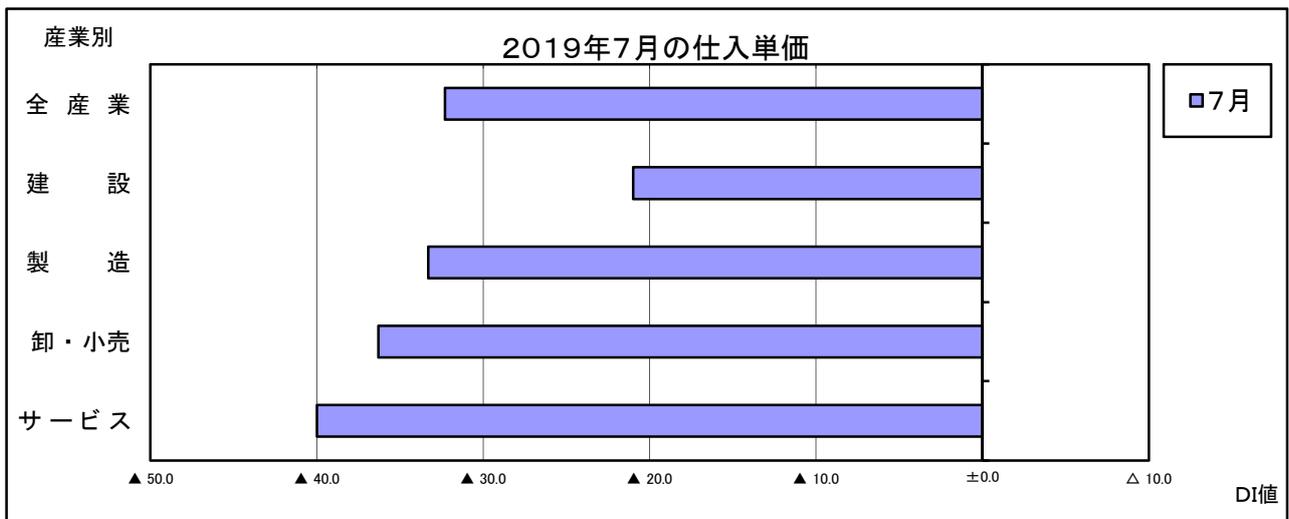
【2019年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.3(前月水準▲31.5)となり、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲21.0(同▲35.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲21.4)、サービス業▲40.0(同▲33.3)、卸小売業▲36.3(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.3(前月水準▲23.2)となり、マイナス幅が9.1ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.6(同▲14.2)、卸小売業▲40.9(同▲29.1)、サービス業▲33.3(同▲26.6)、建設業▲26.3(同▲20.0)である。

2019年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲29.7	▲42.4	▲35.7	▲38.8	▲31.5	▲32.3	▲32.3(▲23.2)
建設	▲33.3	▲38.0	▲31.5	▲35.0	▲35.0	▲21.0	▲26.3(▲20.0)
製造	▲31.2	▲50.0	▲53.3	▲50.0	▲21.4	▲33.3	▲26.6(▲14.2)
卸・小売	▲29.1	▲39.1	▲28.0	▲33.3	▲33.3	▲36.3	▲40.9(▲29.1)
サービス	▲23.0	▲46.1	▲36.3	▲42.8	▲33.3	▲40.0	▲33.3(▲26.6)



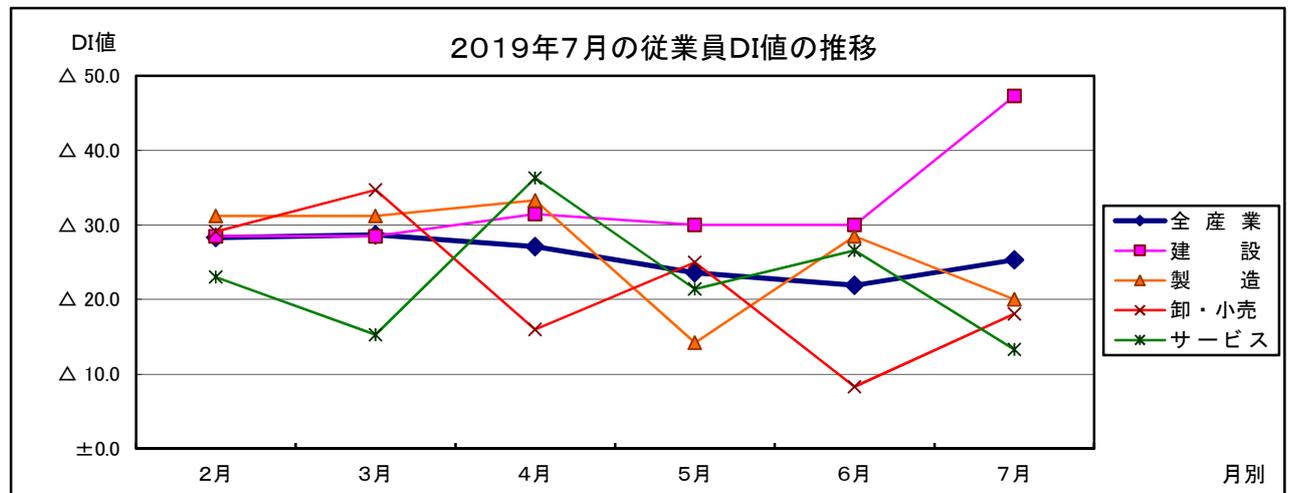
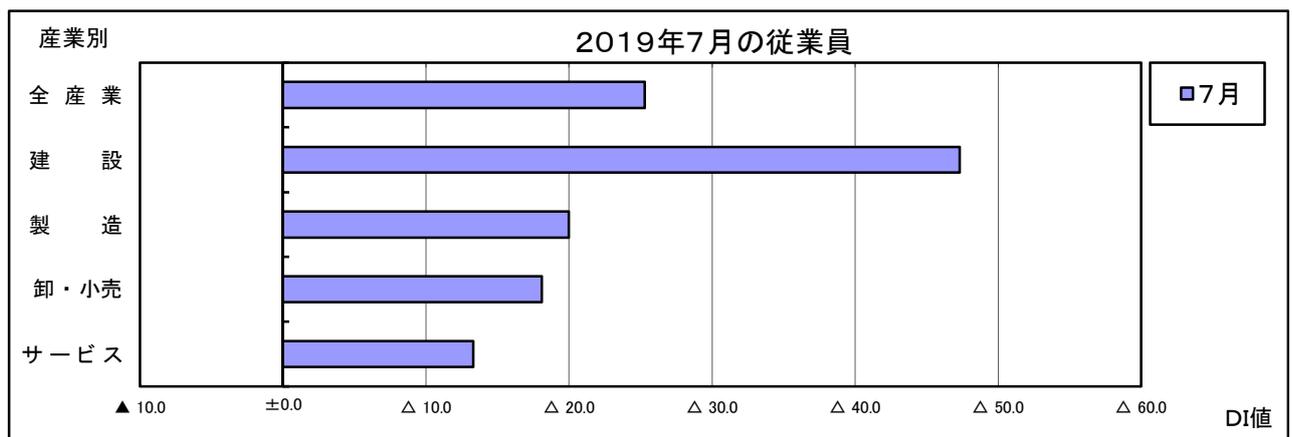
【2019年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△25.3(前月水準△21.9)となり、プラス幅が3.4ポイント拡大した。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△47.3(同△30.0)、卸小売業△18.1(同△8.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同△26.6)、製造業△20.0(同△28.5)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.3(前月水準△23.2)となり、プラス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。  
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△47.3(同△35.0)、卸小売業△13.6(同△12.5)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△26.6(同△35.7)である。

2019年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△28.3	△28.7	△27.1	△23.6	△21.9	△25.3	△25.3(△23.2)
建設	△28.5	△28.5	△31.5	△30.0	△30.0	△47.3	△47.3(△35.0)
製造	△31.2	△31.2	△33.3	△14.2	△28.5	△20.0	△26.6(△35.7)
卸・小売	△29.1	△34.7	△16.0	△25.0	△8.3	△18.1	△13.6(△12.5)
サービス	△23.0	△15.3	△36.3	△21.4	△26.6	△13.3	△13.3(△13.3)



【2019年7月の資金繰りについての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.6(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

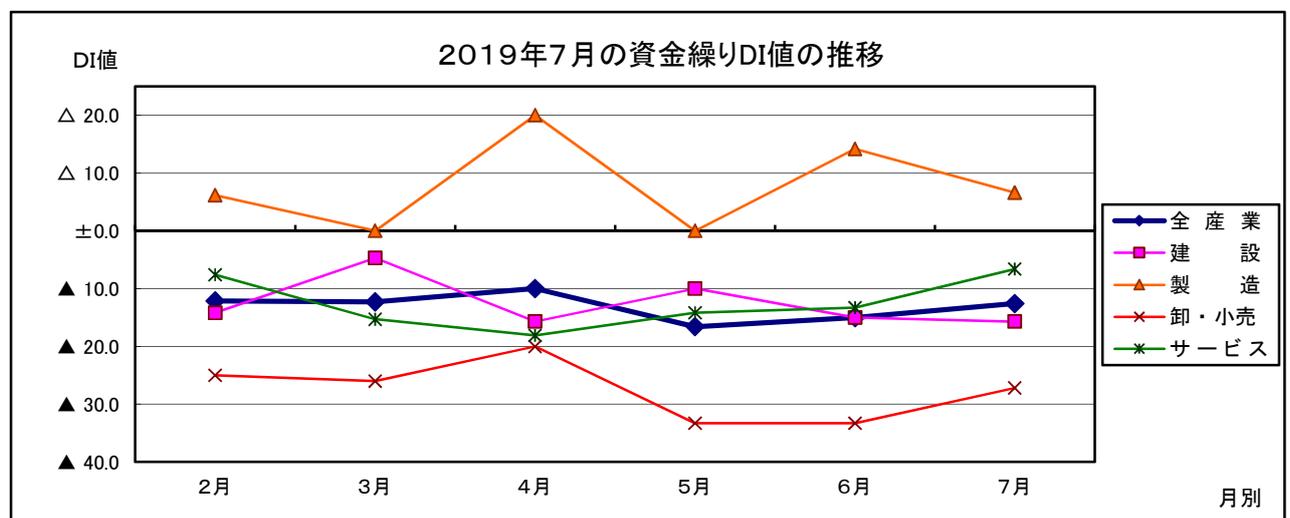
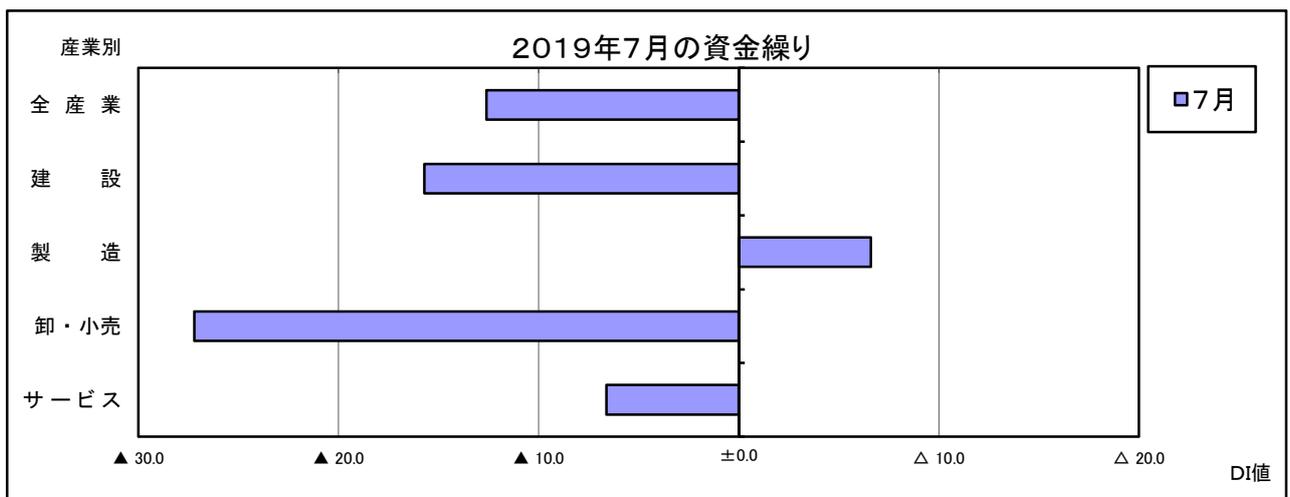
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲13.3)、卸小売業▲27.2(同▲33.3)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△6.6(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲15.7(同▲15.0)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が8.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同△7.1)、建設業±0.0(同△5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同±0.0)、卸小売業▲27.2(同▲16.6)である。

2019年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲12.1	▲12.3	▲10.0	▲16.6	▲15.0	▲12.6	▲11.2(▲2.7)
建設	▲14.2	▲4.7	▲15.7	▲10.0	▲15.0	▲15.7	±0.0(△5.0)
製造	△6.2	±0.0	△20.0	±0.0	△14.2	△6.6	±0.0(△7.1)
卸・小売	▲25.0	▲26.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲27.2	▲27.2(▲16.6)
サービス	▲7.6	▲15.3	▲18.1	▲14.2	▲13.3	▲6.6	▲13.3(±0.0)



## 【2019年7月の調査結果のポイント】

### ≪全産業況DIは再び悪化。先行きは改善を見込むも不透明感強い≫

7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.9(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.5(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲7.1)、卸小売業▲45.4(同▲37.5)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「材料不足が続いている。入荷の予定がつかめず、工事に遅れがでている」(電気工事業)、「事務所改装に伴い一丈ゴザの縫い易い環境が整い、生産性が確実に向上した」(畳工事請負・畳製造販売業)、「どの業界においても少しずつの変化、工夫、減少はあるもの。それに合わせる柔軟性のある会社でなければならないと思う」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「4年に1度の選挙、祭り関係とイベントが多い7月は久しぶりに採算がとれた。しかし先行きは不安」(印刷業)、「5月の大型連休以降、売上がパッとしない。輸出関連企業の売上が落ち込む状況が続く、国内の物流等も不振。今後も売上の低迷が懸念される。働き方改革による有給休暇の消化や残業規制の問題が影響し、人件費が増加。徐々に収益を圧迫しており、生産性の向上が急務。社内の意識改革が重要」(自動車付属品製造業)、「従業員を2ヶ月前から募集しているがヒットしない。医療向けの建材は内装業者が他の工事にシフトしており、病院着工は進んでいかない模様」(特殊産業用機械)、「物が動かない。オリンピック1年前に不景気到来か」(紙製容器製造業)、「経済改革の中で起きてくる出来事の困難な様相は閉塞感が強まるばかり。意識に穴を明け風を入れようと思う」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「中元商戦は昨年より後ろ倒し傾向で、7月に入り回復した。現状は前年並。松戸伊勢丹からの注文乗り換えが昨年の2倍ペースで増加している」(百貨店)、「最近近隣にドラッグストアが出店したが、文具のアイテムが数多く置いてあり、影響を受けている感がある。床面積が大きいドラッグストアの出店は、コンビニの出店より影響大！」(書籍・文房具小売業)、「柏まつりは天気も良く売上好調だった」(洋菓子店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「従業員不足が深刻化」(日本料理)、「相変わらず仕入価額は高値止まり。流通する物件は、実需のお客様の居住用で低価格帯に限られている。賃貸のお客様も減少」(不動産管理業)、「米中経済戦争の長期化がこれ程世界、特に先進国に悪影響を及ぼすとは想定していなかった。低金利の中、日本経済も頭打ち。地方銀行の淘汰は地方の中小企業の淘汰へと厳しい流れに変わる」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

### ◎天候の影響

「天候が悪く気温も低いことから衣料が不振。夏物の動向が非常に悪かった。野菜の相場にも影響があった」(大型小売店)、「気温の低い日が続いている影響で、夏のセールは前年割れの動向。梅雨明け以降も夏物消費に期待」(百貨店)、「天候不順により落ち込みが多い。中旬までの長雨と低気温により羽織物の需要は多かったが、品揃えが間に合わなかった。下旬は高温により来店客数が減少」(婦人・子供服小売業)、「梅雨が長かったので夏物商品の販売期間が短そう。増税前にどれだけ秋物を仕入れられるか」(各種商品小売業)、「長雨の影響で一部仕入単価上昇も」(日本料理)、「天候不順や大型連休等の影響により、来店客数、物件の反響数が減少」(不動産管理業)、「例年夏場はワインの売上が落ちるが、冷夏の影響か今年は落ちない。ただブドウの生育が悪く、原料が高騰」(食料・飲料卸売業)、「7月は気温が低めで全体的に良かった」(洋菓子店)との声が寄せられた。

### ◎消費増税

「現在の好景気は消費税の駆け込みか、職人不足による競合減少によるものなのか不明」(一般土木建築工事業)、「現段階では増税を控えた消費の活発な動きはみられない」(百貨店)、「7月は消費税の支払月だった。他の税金も含め、納税の為に毎月積み立てている額が増加しており、かなり重税感がある。消費増税は景気に悪影響を与えると感じる」(不動産賃貸・管理業)、「消費増税は大物買わずの心理的变化に」(投資顧問)「消費増税に向けた駆け込み受注があればあるほど先行きが不安」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
見通し	▲19.7	▲5.2	±0.0	▲40.9	▲26.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.4	▲ 7.0	▲ 21.1	▲ 11.2	▲ 32.3	▲ 32.3	△ 25.3	△ 25.3
建設	▲ 5.2	△ 5.2	▲ 5.2	△ 5.2	▲ 21.0	▲ 26.3	△ 47.3	△ 47.3
製造	▲ 13.3	±0.0	▲ 6.6	±0.0	▲ 33.3	▲ 26.6	△ 20.0	△ 26.6
卸・小売	▲ 50.0	▲ 27.2	▲ 54.5	▲ 36.3	▲ 36.3	▲ 40.9	△ 18.1	△ 13.6
サービス	△ 20.0	±0.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 40.0	▲ 33.3	△ 13.3	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.9	▲ 19.7	▲ 12.6	▲ 11.2
建設	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 15.7	±0.0
製造	▲ 20.0	±0.0	△ 6.6	±0.0
卸・小売	▲ 45.4	▲ 40.9	▲ 27.2	▲ 27.2
サービス	▲ 13.3	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 13.3

【2019年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
	材料不足が続いている。入荷の予定がつかめず、工事の遅れが出ている。	材料不足	電気工事業
	畳事務所改装に伴い一丈ゴザの縫い易い環境が整い、生産性が確実に向上した。	生産性の向上	畳店製造小売業
	弊社の現在の好景気は消費税の駆け込みか、職人不足による競合減少によるものなのか不明。どの業界においても少しずつの変化、工夫、減少はあるもの。それに合わせる柔軟性のある会社でなければならないと思う。	消費増税 好景気	一般土木建築工事業
製造業	4年に1度の選挙、祭り関係とイベントが多い7月だけにおいては久しぶりに採算がとれた。しかしこれは特別な事であり、先行きは不安しかない。	採算確保 先行き不透明	印刷業
	5月の大型連休以降、大きく落ち込んではいないが売上がパッとしない。輸出関連企業の売上が大きく落ち込む状況が続く中で、国内の物流等も不振。今後も売上の低迷が懸念される。働き方改革による有給休暇の消化や来年度からの残業規制の問題が影響し、人件費が増加。徐々に収益を圧迫しており、生産性の向上が急務。社内の意識改革が重要。	売上不調 働き方改革の影響	自動車付属品製造業
	従業員を2ヶ月前から募集しているがヒットしない。医療向けの建材は内装業者が他の工事にシフトしており、病院着工は進んでいかない模様。	人手不足	特殊産業用機械
	物が動かない。オリンピック1年前に不景気到来か。	不景気	紙製容器製造業
	経済改革の中で起きてくる出来事の困難な様相は閉塞感が強まるばかりであるが、意識に穴をあげ風を入れようと思う。	先行き不透明 意識改革	印刷業
卸小売業	天候が悪く気温も低いことから衣料が不振。夏物の動向が非常に悪かった。野菜の相場にも影響あった。	天候の影響 売上不振	大型小売店
	現段階では増税を控えた消費の活発な動きはみられない。気温の低い日が続いている影響で、夏のセールは前年割れの動向。梅雨明け以降も夏物消費に期待。中元商戦は昨年より後ろ倒し傾向がみられ、7月に入り回復。現状前年並。中元ギフトは松戸伊勢丹からの注文乗り換えが今年の2倍ペースで増加している。	消費増税 天候の影響 御中元商戦	百貨店
	最近近隣にドラッグストアが出店したが、文具のアイテムが数多く置いてあり、影響を受けている感がある。床面積が大きいドラッグストアの出店は、コンビニの出店より影響大だ！	ドラッグストアの 新規出店の影響	書籍・文房具小売業
	柏まつりは天気も良く売上好調だった。	売上好調	洋菓子店
	例年夏場はワインの売上が落ちるが、冷夏の影響か今年は落ちない。ただ冷夏の影響でブドウの生育が悪く、原料が高騰。	天候の影響 経費増加	食料・飲料卸売業
	7月は気温が低めで全体的に良かった。	天候の影響 売上好調	洋菓子店
	天候不順により落ち込みが多い。中旬までの長雨と低気温により羽織物の需要は多かったのだが、品揃えが間に合わなかった。下旬は高温により来店客数が減少。	天候の影響	婦人・子供服小売業
梅雨が長かったので夏商品の販売期間が短そう。増税前にどれだけ秋物を仕入れられるか。	天候の影響	各種商品小売業	
サービス業	長雨の影響で一部仕入単価上昇も。従業員不足が深刻化。	天候の影響 人手不足	日本料理
	天候不順や大型連休等の影響により、来店客数、物件の反響数が減少。相変わらず仕入価額は高値止まり。流通している物件は必要に迫られた実需のお客様で低価額帯の居住用に限られている。賃貸のお客様も減少している。	天候の影響 来店客数減少 仕入価格上昇	不動産管理業
	7月は消費税の支払月であったが、他の税も含め毎月の納税資金の積立額の増加でかなり重税感がある。消費税の増税は景気に悪影響を与える事を肌で感じている。	消費増税	不動産賃貸・管理業
	消費増税に向けた駆け込み受注があればあるほど先行きが不安。	消費増税	ソフトウェア業
米中経済戦争の長期化がこれ程世界、特に先進国に悪影響を及ぼすとは想定していなかった。低金利の中、日本経済も頭打ち。地方銀行の淘汰は地方の中小企業の淘汰と厳しい流れに変わる。消費増税は大物買わずの心理的变化に。	米中経済戦争 消費増税	投資顧問	

## ◎天候の影響

「天候が悪く気温も低いことから衣料が不振。夏物の動向が非常に悪かった。野菜の相場にも影響があった」(大型小売店)、「気温の低い日が続いている影響で、夏のセールは前年割れの動向。梅雨明け以降も夏物消費に期待」(百貨店)、「天候不順により落ち込みが多い。中旬までの長雨と低気温により羽織物の需要は多かったが、品揃えが間に合わなかった。下旬は高温により来店客数が減少」(婦人・子供服小売業)、「梅雨が長かったので夏物商品の販売期間が短そう。増税前にどれだけ秋物を仕入れられるか」(各種商品小売業)、「長雨の影響で一部仕入単価上昇も」(日本料理)、「天候不順や大型連休等の影響により、来店客数、物件の反響数が減少」(不動産管理業)、「例年夏場はワインの売上が落ちるが、冷夏の影響か今年は落ちない。ただブドウの生育が悪く、原料が高騰」(食料・飲料卸売業)、「7月は気温が低めで全体的に良かった」(洋菓子店)との声が寄せられた。

## ◎消費増税

「現在の好景気は消費税の駆け込みか、職人不足による競合減少によるものなのか不明」(一般土木建築工事業)、「現段階では増税を控えた消費の活発な動きはみられない」(百貨店)、「7月は消費税の支払月だった。他の税金も含め、納税の為に毎月積み立てている額が増加しており、かなり重税感がある。消費増税は景気に悪影響を与えると感じる」(不動産賃貸・管理業)、「消費増税は大物買わずの心理的变化に」(投資顧問)「消費増税に向けた駆け込み受注があればあるほど先行きが不安」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

## 2019年7月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.9に対し、「CCI-LOBO」が▲20.2で柏の方がマイナス幅が3.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.4に対し、「CCI-LOBO」が▲14.8で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.1に対し、「CCI-LOBO」が▲20.8で柏の方がマイナス幅が0.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.3に対し、「CCI-LOBO」が▲38.1で柏の方がマイナス幅が5.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業であり、建設業、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△25.3に対し、「CCI-LOBO」が△24.6で柏の方がプラス幅が0.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.6に対し、「CCI-LOBO」が▲11.2で柏の方がマイナス幅が1.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

# 2019年7月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 23.9	 ▲ 10.5	 ▲ 20.0	 ▲ 45.4	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 20.2	 ▲ 5.6	 ▲ 20.5	 ▲ 33.9	 ▲ 14.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 15.4	 ▲ 5.2	 ▲ 13.3	 ▲ 50.0	 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.8	 ▲ 4.6	 ▲ 14.5	 ▲ 30.5	 ▲ 5.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 21.1	 ▲ 5.2	 ▲ 6.6	 ▲ 54.5	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 20.8	 ▲ 15.5	 ▲ 22.3	 ▲ 28.6	 ▲ 14.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 32.3	 ▲ 21.0	 ▲ 33.3	 ▲ 36.3	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 38.1	 ▲ 45.4	 ▲ 42.4	 ▲ 34.9	 ▲ 35.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 25.3	 47.3	 20.0	 18.1	 13.3
CCI-LOBO	 24.6	 37.5	 15.7	 23.1	 30.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.6	 ▲ 15.7	 6.6	 ▲ 27.2	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 11.2	 ▲ 4.6	 ▲ 9.7	 ▲ 17.8	 ▲ 10.0

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：2019年7月16日～22日

調査対象：全国の339商工会議所が2,666企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、一部に弱さ見られる。先行きは、不透明感強く、ほぼ横ばいの動き**

7月の全産業合計の業況DIは、▲20.2と、前月から▲1.9ポイントの悪化。都市部の民間工事を中心とする建設業の底堅い動きや堅調なインバウンド需要が下支えしたものの、根強い消費者の節約志向に加え、気温の低い日が続く、夏物商材の需要が低迷した小売業や、

例年より長い梅雨の影響で客足が減少した飲食・宿泊業を中心とするサービス業の業況感が悪化した。深刻な人手不足による受注機会の損失や人件費・外注費の増大、原材料費の高止まり、米中貿易摩擦や世界経済の先行き不透明感が中小企業のマインドを下押ししており、足踏みが続いていた中小企業の景況感は、足元で弱い動きがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲20.1（今月比+0.1ポイント）と改善を見込む。個人消費の拡大やインバウンドを含む夏の

観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦や世界経済の動向、消費税引上げの影響など不透明感が増す中、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業、小売業、サービス業で悪化、製造業は横ばい、建設業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「熱中症対策として全国の学校で空調設備の設置が進められているため、発注量は増加している。売上は改善した一方で、全国で一斉に進められていることから、人手や機器など全てが不足している状態」（空調機器設置工事業、「技術者を中心とする深刻な人手不足が事業展開の足かせとなった

ているが、今後は積極的に新規設備投資を行い、さらなる売上増を図りたい」（一般工事業）

【製造業】「消費税引上げ前の駆け込み需要が発生し、売上・採算ともに改善したが、10月以降も受注量を維持できるか不安である」（建設建築用金属製品製造業、「中国经济停滞の影響に伴い受注量が減少し、売上悪化となった。同業者の廃業も見られ、廃業した会社の仕事も打診されている」（自動車・付属品製造業）

【卸売業】「仕入れ値が上昇しており、採算確保に苦戦している。九州地方の大雨が、今後、農作物に与える影響を懸念している」（農産物卸売業、「5月の10連休の反動なのか気温が上がらないためなのか、消費者の購買意欲が低下しており、売上が伸びない。好転材料も見当たらず、飲食業界にとっては今後も厳しい状況が続くと思われる」（飲食料品卸売業）

【小売業】「夏のセールが始まったが、気温の低い日が続いている影響で夏物衣料品を中心に苦戦しており、前年割れは避けられない状況。現段階では消費税引上げ前の駆け込み需要は見られないが、梅雨明け後の消費動向に期待している」（百貨店、「中元商戦を迎えたが、贈答用商品の売上は年々減少しており、低調な動きとなった。仕入単価も上昇しており、採算確保に苦慮している」（酒類小売業）

【サービス業】「例年より長い梅雨の影響に加え、消費者の節約志向が根強く、客数・客単価ともに落ち込んだほか、野菜などの材料費の仕入コストも上昇しており、売上・採算ともに悪化した」（飲食業、「10月の消費税引上げに向けたシステム改修作業が本格化し、受注は堅調。一方で、人手不足は深刻であり、顧客からの要請に十分に応えられない状況が続いている」（ソフトウェア業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲18.1	▲8.5	▲12.2	▲23.1	▲32.4	▲15.6
3月	▲16.9	▲5.8	▲16.6	▲22.4	▲29.5	▲11.7
4月	▲16.7	▲3.9	▲18.3	▲20.5	▲33.9	▲7.9
5月	▲17.1	▲7.7	▲22.3	▲19.8	▲29.4	▲6.7
6月	▲18.3	▲9.5	▲20.0	▲25.5	▲28.3	▲10.9
7月	▲20.2	▲5.6	▲20.5	▲27.4	▲33.9	▲14.5
見通し	▲20.1	▲10.9	▲19.6	▲25.1	▲31.7	▲14.3

# 柏の景気情報

(7月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年7月25日～8月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲24.3	▲33.3	± 0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△ 6.6	▲32.0	▲9.0
5月	▲22.2	▲10.0	▲14.2	▲45.8	▲7.1
6月	▲21.9	▲25.0	▲7.1	▲37.5	▲6.6
7月	▲23.9	▲10.5	▲20.0	▲45.4	▲13.3
見通し	▲19.7	▲5.2	± 0.0	▲40.9	▲26.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

## 「柏市」の「業況」

全産業業況D Iは再び悪化。先行きは改善を見込むも不透明感強い

7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.9(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.5(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同▲7.1)、卸小売業▲4.4(同▲3.7)、サービス業▲13.3(同▲6.6)。

(6)である。

【建設業】からは、「材料不足が続いている。入荷の予定がつかめず、工事に遅れがでている」(電気工事業)、「事務所改装に伴い一丈ゴザの縫い穴をあげ風を入れようと思いが強い」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「中元商戦は昨年より後ろ倒し傾向で、7月に入り回復した。現状は前年並。松戸伊勢丹からの注文乗り換えが昨年の2倍ペースで増加している」(百貨店)、「最近近隣にドラッグストアが出店したが、文具のアイテムが数多く置いてあり、影響を受けている感がある。」

【製造業】からは、「4年1度の選挙、祭り関係とイベントが多い7月は久しぶりに採算がとれた。しかし先行きは不安」(印刷業)、「5月の大型連休以降、売上がパッとしない。輸出関連企業の売上が落ち込む状況が続く、国内の物流等も不振。今後も売上の低迷が懸念される。働き方改革による有給休暇の消化や残業規制の問題が影響し、人件費が増加。徐々に収益を圧迫しており、生産性の向上が急務。社内の意識改革が重要」(自動車付属品製造業)、「従業員を2ヶ月前から募集しているがヒットしない。医療向け建材は内装業者が他の工業、米中経済競争の長期化事にシフトしており、病院着工は進んでいかない模様」(特殊産業用機械)、「物が動かない。オリンピック1年前に不景気到来か」(紙製容器製造)、「経済改革の中で起きてくる出来事の困難な様相は閉塞感が強まるばかり。意識に穴をあけ風を入れようと思いが強い」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「従業者不足が深刻化」(日本料理)、「相変わらず仕入価額は高値止まり。流通する物件は、実需のお客様の居住用で低価格帯に限られている。賃貸の格帯にも減少」(不動産管理)、「米中経済競争の長期化がこれ程世界、特に先進国には悪影響を及ぼすとは想定して

いなかった。低金利の中、日本経済も頭打ち。地方銀行の淘汰は地方の中小企業の淘汰へと厳しい流れに変わる」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

## 「7月の景気キーワード」

### ◎天候の影響

「天候が悪く気温も低いことから衣料が不振。夏物の動向が非常に悪かった。野菜の相場にも影響があった」(大型小売店)、「気温の低い日が続いている影響で、夏のセールは前年割れの動向。梅雨明け以降も夏物消費に期待」(百貨店)、「天候不順により落ち込みが多い。中旬までの長雨と低気温により羽織物の需要は多かったが、品揃えが間に合わなかった。下旬は高温により来店客数が減少」(婦人・子供服小売業)、「梅雨が長かったので夏物商品の販売期間が短そう。増税前にどれだけ秋物を仕入れられるか」(各種商品小売業)、「長雨の影響で一部仕入単価上昇も」(日本料理)、「天候不順や大型連休等の影響により、来店客数、物件の反響数が減少」(不動産管理業)、「例年夏場はワインの売上が落ちるが、冷夏の影響か今年は落ちない。ただブドウの生育が悪く、原料が高騰」(食料・飲料卸売業)、「7月は気温が低めで全体的に良かった」(洋菓子店)との声が寄せられた。

### ◎消費増税

「現在の好景気は消費税の駆け込みか、職人不足による競合減少によるものなのか不明」(一般土木建築工事業)、「現段階では増税を控えた消費の活発な動きはみられない」(百貨店)、「7月は消費税の支払月だった。他の税金も含め、納税の為に毎月積み立てている額が増加しており、かなり重税感がある。消費増税は景気に悪影響を与えると感じる」(不動産賃貸・管理業)、「消費増税は大物買わずの心理的变化に」(投資顧問)、「消費増税に向けた駆け込み受注があればあるほど先行きが不安」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

### 「全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-100)」との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲23.9に対し、「CCI-100 BO」が▲20.2で柏の方がマイナス幅が3.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。